令和 2 年度厚生労働科学研究補助金難治性疾患克服研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

潰瘍性大腸炎・クローン病外科治療指針の改訂

研究分担者　杉田昭　　横浜市立市民病院　臨牀研究部　部長

研究要旨：
潰瘍性大腸炎、クローン病外科治療指針は内科治療、外科治療の変遷に伴って迅速に改訂されることが必要である。今回は両疾患について手術適応、手術時期、手術術式、術後管理などについて追記、改変を行った。今後も両疾患について適宜、改訂を行っていく予定である。

共同研究者
小金井一隆(横浜市立市民病院炎症性腸疾患科)
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)
池内浩基(兵庫医科大学炎症性腸疾患講座外科部門)
高橋賢一(東北労災病院大腸肛門外科)
石原聡一郎(東京大学大腫瘍外科)
篠崎大(東京大学付属医科学研究所腫瘍外科)
板橋道朗(東京女子医科大学消化器・一般外科)
東大二郎(福岡大学筑紫病院外科)
小山文一(奈良県立医大中央内視鏡部)
木村英明(横浜市大市民総合医療センターIBD センター)
水島恒和(大阪大学消化器外科)
内野基(兵庫医科大学炎症性腸疾患講座外科部門)
渡辺和宏(東北大学消化器外科)
大北喜基(三重大学消化管・小児外科)
根津理一郎(大阪中央病院外科)
舟山裕士(仙台赤十字病院外科)
藤井久男(吉田病院)
福島浩平(東北大学分子病態外科)
新井勝大(国立成育医療研究センター小児 IBD センター)
平井郁仁(福岡大学消化器内科)
中村志郎(大阪医科大学第二内科)
長沼誠(関西医科大学内科学第三講座)
渡辺憲治(兵庫医科大学炎症性腸疾患センター内科)

A.　研究目的

潰瘍性大腸炎、クローン病に対する外科治療は新規治療を含めた内科治療の変遷や新しい術式や術後経過の変遷にともなって手術適応、手術術式、術後管理などが変化し、外科治療の位置づけを変わることから、迅速に改訂されていくことが必要であり、本改訂は外科医だけなく内科医、小児科医を含めて行う。

B.　研究方法

本研究班で潰瘍性大腸炎、クローン病の外科治療指針の改訂を、外科だけでなく、内科、小児科 expert(共同研究者)の意見によって行っており、最終合意の得られた内容を改訂の最終案としている。

C.　研究成果

潰瘍性大腸炎、クローン病ともに手術適応、手術術式、術後管理などについて改訂を行った。改訂案の詳細は、潰瘍性大腸炎は資料－1 に、クローン病は資料－2 に示した(改訂部位は下線で示した)。

D.　考察

今回は追記、改変を多くの項目で行った。今後も両疾患について適宜、迅速に改訂を行っていく予定である。